

令和4年度 事務事業評価シート

施策	211 職・住・学・遊が調和したまちづくりを計画的に進める	部内優先順位		
事業名	大学のあるまちづくりの推進	1		
目的	令和2年度のIU情報経営イノベーション専門職大学の開学、令和3年度の千葉大学墨田サテライトキャンパスの開設を契機に、両大学が有する人的資源及び知的資源を活用し、地域と大学が協働して地域課題・社会課題の解決に取組む「大学のあるまちづくり」を進める。	主管課 係(担当)		
		行政経営担当		
対象者	全区民、大学、区内事業者等	3713		
根拠法令 関連計画	なし			
実施基準	区独自基準 実施方法 直営 人員体制・委託先	3名		
事業内容	<p>1 大学のあるまちづくりの推進</p> <p>(1) 千葉大学・IU情報経営イノベーション専門職大学との事業連携に係る調整</p> <p>(2) アーバンデザインセンター(UDC)すみだの運営支援</p> <p>(3) 文花地区未来ビジョン策定に向けた検討</p> <p>2 大学整備用地全体の調整</p> <p>キャンパスコモン・あずま百樹園の再整備に係る調整</p> <p>3 千葉大学関係事務</p> <p>(1) 土地・建物賃貸借契約に係る各種事務(大学との調整)</p> <p>(2) 建物維持管理(法令点検・リース等)</p>	事業番号		
経過	開始年度	平成20年度～	終了予定	未定
	<p>平成20年:第4回定例会(企画総務委員会)において、「4年制の総合大学」を誘致することを正式に表明</p> <p>平成23年:学校跡地に対する大学誘致の公募を実施 「該当校なし」との結果</p> <p>平成24年～:関東近郊の大学に対し、進出意向のアンケートを実施</p> <p>平成29年3月:国立大学法人千葉大学と「包括的連携に関する協定」を締結</p> <p>平成29年12月:学校法人電子学園と「包括的連携に関する協定」を締結</p> <p>平成30年～:「旧すみだ中小企業センター改修基本・実施・解体設計」の実施</p> <p>令和2年4月:学校跡地北側に「IU情報経営イノベーション専門職大学」が開学</p> <p>令和2年7月:国交省官民連携都市再生推進事業に採択(～令和4年度)</p> <p>令和2年～:「キャンパスコモン・あずま百樹園再整備基本・実施設計」の実施</p> <p>令和3年3月:墨田区、国立大学法人千葉大学、学校法人電子学園と「包括的連携に関する三者協定」を締結</p> <p>令和3年4月:旧すみだ中小企業センターの改修が完了し、「千葉大学墨田サテライトキャンパス」が開設。公民学連携組織「アーバンデザインセンター(UDC)すみだ」の設立。</p> <p>令和3年5月:東京都エリアリノベーション推進支援事業に採択(～令和7年度)</p> <p>令和4年3月:IUの新たな教育研究拠点「すみだメディアラボ」が開設。墨田区、学校法人電子学園、BSよしもと株式会社の三者で「DX推進に関する連携協定」を締結。</p>			
議会質問の状況	<p>令和2年3月(企画総務委員会)</p> <p>(福田委員):IUには芝生広場があるが、ここは地域に開放してくれるのか。新しい隅田公園のようにファミリーでも集えるような気軽に入れる場なのか。</p> <p>(企画経営室参事):令和2年4月以降は地域に開放していくと聞いている。周辺には塀がなく、誰でも自由に入れるのがコンセプトであり、公園のように気軽に使えるようになるが、学校施設ではあるため、今後ルール作りが必要になる。エリア全体として憩いの場として活用できるエリアにしたい。</p>			
	<p>令和3年3月(企画総務委員会)</p> <p>(しもむら議員):コロナ禍において、IUはオンラインでの授業を行っているとのことだが、千葉大学の動きはどうなっているのか。</p> <p>(企画経営室参事):千葉大学もオンライン授業が中心だと聞いている。ただ、このサテライトキャンパスのコンセプトは生活の全てをシミュレートするというものであることから、フィールドワークや工作機器を使用した実習など、対面とオンラインとをバランスよく配置するような形だとも聞いており、墨田キャンパスも徐々に活用されていく。</p>			
その他特記事項	<p>令和4年3月(企画総務委員会)</p> <p>(加納委員):すみだメディアラボにおいて、BSよしもとはどのように関わっているのか。</p> <p>(企画経営室参事):地方創生をテーマにしたコンテンツ制作を行っている。ただし、すみだメディアラボはIUの附属施設であり、最先端のメディア開発あるいは教育コンテンツ、社会連携の拠点となっている。今後、本区との連携の中で、どのようにすみだの魅力を発信していくかなど、協議していきたい。</p>			
	<p>(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)</p> <p>他区の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方大学振興法(23区の大学の定員増を10年間抑制等)の成立(H30.6月公布) ・専門職大学については、R6.3月までは経過措置として23区内に設置可能 <p>年間スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスコモン整備工事の完了(R5.3) <p>関連部署</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市整備課(キャンパスコモン・あずま百樹園の再整備に係る執行委任) 			

予算・決算額推移（単位：千円）		29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
予算現額（事業費）		439,989	54,129	976,668	2,566,414	82,905	118,994	
A.決算額（令和4年度は見込み）		437,851	15,026	926,325	2,527,311	73,104	118,994	
財源	国				10,000	5,000	10,000	
	都					6,468	6,000	
	その他					32,493	66,159	
一般財源		437,851	15,026	926,325	2,517,311	29,143	36,835	
執行率（％）		99.5%	27.8%	94.8%	98.5%	88.2%	100.0%	
B.人コスト			11,812	11,359	11,469	14,953		
総事業決算額（A+B）		437,851	26,838	937,684	2,538,780	88,057		
予算書P（令和4年度）	P.36,43,80,84		執行実績報告書P（令和3年度）					

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和2年度（決算）			令和3年度（決算）			令和4年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報酬	大学誘致選定審査委員会報酬	0	報償費	大学のあるまちづくり関連謝礼	719	報償費	大学のあるまちづくり関連謝礼	837
報償費	大学のあるまちづくり関連謝礼	351	旅費	職員旅費	18	旅費	職員旅費	144
旅費	職員旅費	63	需用費	消耗品購入	112	需用費	消耗品購入	200
需用費	消耗品購入	487	委託料	大学との連携委託	10,585	委託料	大学との連携委託	41,500
委託料	大学との連携委託	9,943	負担金補助及び交付金	UDCすみだ活動支援補助金	7,121	負担金補助及び交付金	UDCすみだ活動支援補助金	9,000
負担金補助及び交付金	アーバニスト養成講座受講料	20	役務費	樹木撤去業務委託	924	委託料	保守点検委託	5,208
需用費	改修工事後の光熱水費等	2,843	委託料	保守点検委託	4,069	使用料及び賃借料	モデルショップ機器等の借上	23,928
役務費	構造判定手数料等	328	使用料及び賃借料	モデルショップ機器等の借上	18,244	工事請負費	キャンパスコンモンプリ接地復旧工事	38,177
委託料	内装整備委託等	272,459	工事請負費	維持管理に係る工事	6,314			
使用料及び賃借料	モデルショップ機器等の借上	811	委託料	千葉大学共同事業	25,000			
工事請負費	田沼市民小企業センター大規模改修工事費等	2,180,301						
負担金補助及び交付金	大学整備工事に係る負担金等	59,706						

事業の果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	大学誘致用地における大学等の設置施設数				単位	棟
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		-	R7	目標	1	2	3	3
				実績	0	0	0	0
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	3	3	3	3	3	3
	実績	1	3					
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	国立大学法人千葉大学と情報経営イノベーション専門職大学のほか、将来活用地(旧西吾孺小学校跡地)に更なる施設の誘致を想定しているため、活動指標とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	区・地域と大学の連携活動				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		40	R7	目標	-	1	3	5
実績				0	6	7	46	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標		15	20	25	30	35	40	
実績	27	29						
指標の選定理由及び目標値の理由								
地域経済の活性化や地域の賑わいを創出するためには両大学が区内で活発な連携活動が行われていることが不可欠であるため、大学による区内での連携活動数を成果指標とする。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	区の課題解決に向けて千葉大学、情報経営イノベーション専門職大学の知見を活用するとともに、区や地域を巻き込んだ公民学の連携をより一層充実させ、大学のあるまちづくりを推進する。

課題・問題点
<ul style="list-style-type: none"> ・大学整備用地に関する区議会・地域住民への説明 ・千葉大学、情報経営イノベーション専門職大学との事業連携に関する調整 ・UDCすみだの運営 ・大学のあるまちづくり事業に関する啓発